

浅草岳山行記録



山頂と前岳

1585.5m

ムジナ沢カッチ

目的地	浅草岳 (早坂尾根上山)	期 日	平成21年3月31日 (火)・晴
山人	笠原正雄・高橋誠一・高橋かよ・小柳さん	特 記	高橋さんと約束の早坂尾根へもう一度

地点名	時刻	記 事
与板発	午前 6:45	朝 6 時に電話があり一緒に向かうことになる。栃尾道の駅から同乗させて貰う。
大自然館前	8:30	他に 1 台。雲一つ無い快晴、日焼止めを塗る。カンジキで林道に行く。2~3 日前からの降雪が固い雪の上に乗っている。昨日のものと思われるスキートレースがあり、少し凍みては居るものの、その上を歩く方が幾分歩き易い。
右沢橋で休む	9:15	額から汗が落ちてくる。ろくろ橋との中間点に上の台地に上れそうな雪斜面があった。チョットそこを上りたいとも思ったが、予定通り先へ進む。
杉緩斜面へ入る	9:35	エコミュージアムへの分岐から数分進んでもう一つ橋を渡り再び右岸へ。スキートレースは更に林道を進んでいるが、ここから左折して杉林に上る。間もなく他のスキートレースと合流し、新雪より歩き易いその上をなぞる。
小沢を渡る		スキートレースに従って進むうち、今月 8 日に歩いた所と同じ辺りに出た。右手すぐ下に車道が見えた。今朝のものと思われる下りスキートレースも加わる。
杉の林	10:20	GPS で標高 815m。杉林の中、少し開けた所で立ち休み。頂上が見える。広葉樹と杉とを交互に進むが、時折沢と出くわして迂回を余儀なくされる。
枝尾根を登る	10:40	漸く杉林の無い所まで来た。スキートレースも数本残っている。いよいよ早坂尾根に上がる訳だが、しばらくはそのトレース通りに進んだ。トレースは早坂尾根鞍部方向に左折している。振返れば、8 日に下った枝尾根の基部のそばであることに気付く。そこで我々は高みを目指して右折し、新雪ラッセルに入る。少し進み前回下山の急降下に思いが走り、少し左に舵を振った。ところが岩場に出くわす。藪が付いているので、強引に登って突破しようとしたが、途中で無理と判断。降りて右に舵を切り直し、結局は前回急降下の尾根を登ることとなった。
早坂尾根に上がる	12:00~12:15	枝尾根急登りは結構ハードである。動物の足跡もあり、彼らの方が賢いなと思ってしまう。ここのブナは圧倒される太さである。漸く主稜の広い所に出て休む。守門を始め粟、川内下田の山のオンパレードは勿論だが、今までに無く飯豊の全貌が大きく見えた。Mさんが脚の不調を訴えたため、ここでユックリと休んで、少し食べる。藪上がりで GPS を失ったと気付くが、探しに戻るには辛過ぎる。
ワカンをぬぐ	午後 1:25	尾根では、やはりスキーシュプール上を進むが、所々で新雪を直進する。標高が上るにつれ、新雪厚も 10 数 cm 程度となり、その下の雪も固く締まっている。壺足歩行とした。小柳さんがグングンと先行してトレースを付けてくれる。
浅草岳山頂	2:00	山頂看板周辺の岩が一部露出していて、乾いていた。丁度うまい具合に車座に座ることが出来た。風も無く穏やかである。田子倉湖もくっきりと見え、着いたときは霞の中だった尾瀬燧ヶ岳もボンヤリと見えて来た。
下山へ	2:55	数本のスキートレースが下っている。ワカンを履いて下山する。鬼ヶ面岸壁が薄雪化粧をまとい、いい景観である。登ってきたルートが全て見渡せる。
カヘヨノボッチ	3:20	雪が少なくトラバースは出来ない。ピークを乗越えれば、少し藪が出ていた。
H1248で休む	3:40	一部分にワカン跡が見られたが、歩行者は無かったようだ。徐々に雪が腐って来るが、暖かく、快適な下山だ。ムジナ沢対岸の尾根の新雪模様が美しい。
白崩橋袂	5:05 着	標高 900m 上の尾根急降下まで来るとますます腐り雪となる。シリセードを試みたが、滑らない。重い雪を歩いて予想時間通りで到着する。

暖冬少雪で雪消えも早い。ところが 2~3 日前から寒波が来て、平野部でも降雪があった。この雪が止み、晴れたら山に入ろうと思っていた。そして天気予報でこの日だけに晴れマークだ。前日の朝に高橋さんのブログに同行の申し出をした。しかし、彼は土曜日から連続で山に入っていて連絡が取れなかった。当日、単独で日向倉山を目指すべく準備をし、そろそろ出発と云うところに電話が入った。急遽話がまとまり、ここに出かけることとなった。予想以上の好条件となって、今までの浅草岳山行の中では最高の展望であった。一方、今回上った尾根を使うつもりでは無かったのだが、つい高い方を目指してしまい、皆さんに難儀を掛けてしまった。